参考資料６

平成２３年度

災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

も　く　じ

はじめに 2

Ⅰ．調査概要 3

１－１．調査概要 3

１－２．調査対象の災害ボランティアセンター 4

Ⅱ．災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査 6

２－１．安全衛生に関する資機材・物資について 6

２－２．ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮 . . 11

２－３．ボランティア活動時において発生したケガ、疾病 17

Ⅲ．資料編 23

３－１．安全衛生のために使われる資機材・物資の例 23

３－２．アンケート調査票 24

内閣府（防災担当）

平成 24 年 3 月

はじめに

本調査は、平成 16 年度以降、継続して災害ボランティアセンターの実態や課題把握するために実施してきている。今後の災害時においてすみやかな対応や課題解決の一助とすることを目的とする。

なお、調査にあたっては、災害ボランティアセンターの設置・運営に関わった県・市町社会福祉協議会など関係者の方々にアンケート等にご回答いただくとともに、多忙の折にも関わらず、全国社会福祉協議会のご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

Ⅰ．調査概要

１－１．調査概要

本調査は、平成 23 年 1 月から 12 月に設置された災害ボランティアセンター（東日本大震災を除く）（以下、センターとする。）を対象に、災害ボランティア活動の安全衛生に関する対応等について、その現状や課題を把握することを目的とし、各センターの主体と考えられる各社会福祉協議会にアンケート調査を実施した。

実施期間	平成 24 年 1 月 5 日～3 月 17 日
対　　象	平成 23 年に設置された災害ボランティアセンター（東日本大震災を除く）
調査方法	担当部局への郵送（全国社会福祉協議会、センターが設置された都道府県社会福祉協議会）、FAX および郵送による回収
回　　収	市区町村レベル　37 センター中 37 センター

１－２．調査対象の災害ボランティアセンター

調査対象とした災害ボランティアセンターは表 1－1 のとおりである。

■表 1-1　平成 23 年に設置された災害ボランティアセンター一覧

	都道府県	市町村名	正式名称	活動期間	災害名
1	宮崎県	**都城市**	都城市災害救援ボランティアセンター	1 月 31 日(月)～6 月 30 日(木)	霧島山（新燃岳）の噴火災害
2	宮崎県	**高原町**	高原町災害ボランティアセンター	2 月 7 日(月)～28 日(月)	
3	新潟県	**長岡市**	長岡市雪害ボランティアセンター	1 月 31 日(月)～2 月 6 日(日)	平成 22 年 11 月からの大雪災害
4	新潟県	**魚沼市**	魚沼市雪害ボランティアセンター	1 月 27 日(木)～2 月 20 日(日)	
5	新潟県	**柏崎市**	柏崎市豪雪救援ボランティアセンター	1 月 26 日(水)～2 月 21 日(月)	
6	新潟県	**三条市**	三条市災害ボランティアセンター	8 月 1 日(月)～9 月 4 日(日)	平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨水害
7	新潟県	**魚沼市**	魚沼市災害ボランティアセンター	7 月 31 日(日)～8 月 7 日(日)	
8	新潟県	**南魚沼市**	南魚沼市災害ボランティアセンター	7 月 30 日（土）～8 月 19 日(金)	
9	新潟県	**十日町市**	十日町市 7.28 豪雨災害ボランティアセンター	8 月 1 日(月)～12 日(金)	
10	新潟県	**阿賀町**	阿賀町ボランティアセンター三川地区	8 月 2 日(火)～12 日(金)	
11	新潟県	**阿賀町**	阿賀町ボランティアセンター鹿瀬地区	8 月 2 日(火)～12 日(金)	
12	新潟県	**長岡市**	長岡市栃尾地区災害支援ボランティアセンター	8 月 1 日(月)～12 日(金)	
13	新潟県	**長岡市**	長岡市川口地区災害支援ボランティアセンター	8 月 2 日(火)～7 日(日)	
14	新潟県	**見附市**	見附市災害ボランティアセンター	8 月 2 日(火)～8 日(月)	
15	新潟県	**五泉市**	五泉市災害ボランティアセンター	8 月 2 日(火)～16 日(火)	
16	福島県	**只見町**	只見町災害ボランティアセンター	8 月 1 日(月)～9 月 4 日(日)	
17	福島県	**金山町**	金山町災害ボランティアセンター	8 月 1 日(月)～9 月 8 日(木)	

18	三重県	**熊野市**	熊野市災害ボランティアセンター	9月8日(木)～10月13日(木)	平成23年台風12号による災害
19	三重県	**紀宝町**	紀宝町災害ボランティアセンター	9月5日(月)～10月16日(日)	
20	三重県	**御浜町**	御浜町災害ボランティアセンター	9月5日(月)～10月11日(火)	
21	奈良県	**天川村**	天川村災害ボランティアセンター	9月8日(木)～13日(火)	
22	奈良県	**十津川村**	十津川村災害ボランティアセンター	9月14日(水)～30日(金)	
23	和歌山県	**新宮市**	新宮市災害ボランティアセンター	9月6日(火)～11月6日(日)	
24	和歌山県	**那智勝浦町**	那智勝浦町災害ボランティアセンター	9月7日(水)～10月16日(日)	
25	和歌山県	**田辺市**	田辺市災害ボランティアセンター	9月7日(水)～10月9日(日)	
26	和歌山県	**古座川町**	古座川町災害ボランティアセンター	9月6日(火)～10月2日(日)	
27	和歌山県	**日高川町**	日高川町災害ボランティアセンター	9月10日(土)～10月10日(月)	
28	和歌山県	**白浜町**	白浜町災害ボランティアセンター	9月7日(水)～26日(月)	
29	岡山県	**岡山市**	岡山市災害ボランティアセンター	9月7日(水)～9日(金)	
30	岡山県	**玉野市**	玉野市災害ボランティアセンター	9月7日(水)～11日(日)	
31	岡山県	**倉敷市**	倉敷市災害ボランティアセンター	9月7日(水)～19日(月)	
32	福島県	**須賀川市**	須賀川市災害ボランティアセンター	9月22日(木)～10月24日(月)	平成23年台風15号による災害
33	福島県	**郡山市**	郡山市災害ボランティアセンター	9月24日(土)～10月4日(火)	
34	岐阜県	**多治見市**	多治見市災害ボランティアセンター	9月22日(木)～30日(金)	
35	兵庫県	**淡路市**	淡路市災害ボランティアセンター	9月23日(金)～10月2日(日)	
36	鹿児島県	**龍郷町**	龍郷町災害ボランティアセンター	9月28日(水)～10月7日(金)	奄美大島北部豪雨災害
37	鹿児島県	**瀬戸内町**	瀬戸内町災害ボランティアセンター	11月4日(金)～7日(月)	奄美大島南部豪雨災害

II．災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査

２－１．安全衛生に関する資機材・物資について

（１）調達した資機材・物資と調達先

ボランティア活動時の安全衛生を確保するためには、作業者の装備、作業後の衛生施設の整備をセンターで行うことが重要である。

安全衛生に必要な資機材・物資のリストは、表 2-1 のようなものが考えられる。よってこれらの資機材・物資の調達の状況について調査した。

■ 表 2-1 安全衛生に必要な資機材・物資

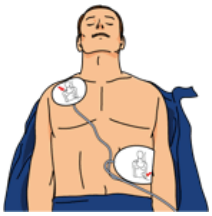
作業中	個人	・ヘルメット ・防塵（ぼうじん）ゴーグル ・防塵（ぼうじん）マスク ・通常のマスク ・軍手 ・ゴム引き手袋（荷運び向け） ・ゴム手袋（防水） ・革手袋 ・安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの） ・タオル ・ペットボトルの水 ・（熱中症予防の）塩分など
	グループ	・救急セット ・連絡用の携帯電話 ・トランシーバー ・ＡＥＤ（自動体外式除細動器）＊1
作業後	センター	・消毒液 ・うがい薬 ・高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）

（Ｐ20「安全衛生のために使われる資機材・物資の例」を参照）

＊1 AED（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）とは

突然心停止状態に陥った人に対して、電気ショックを与えて、心臓を正常な状態に戻す医療機器。

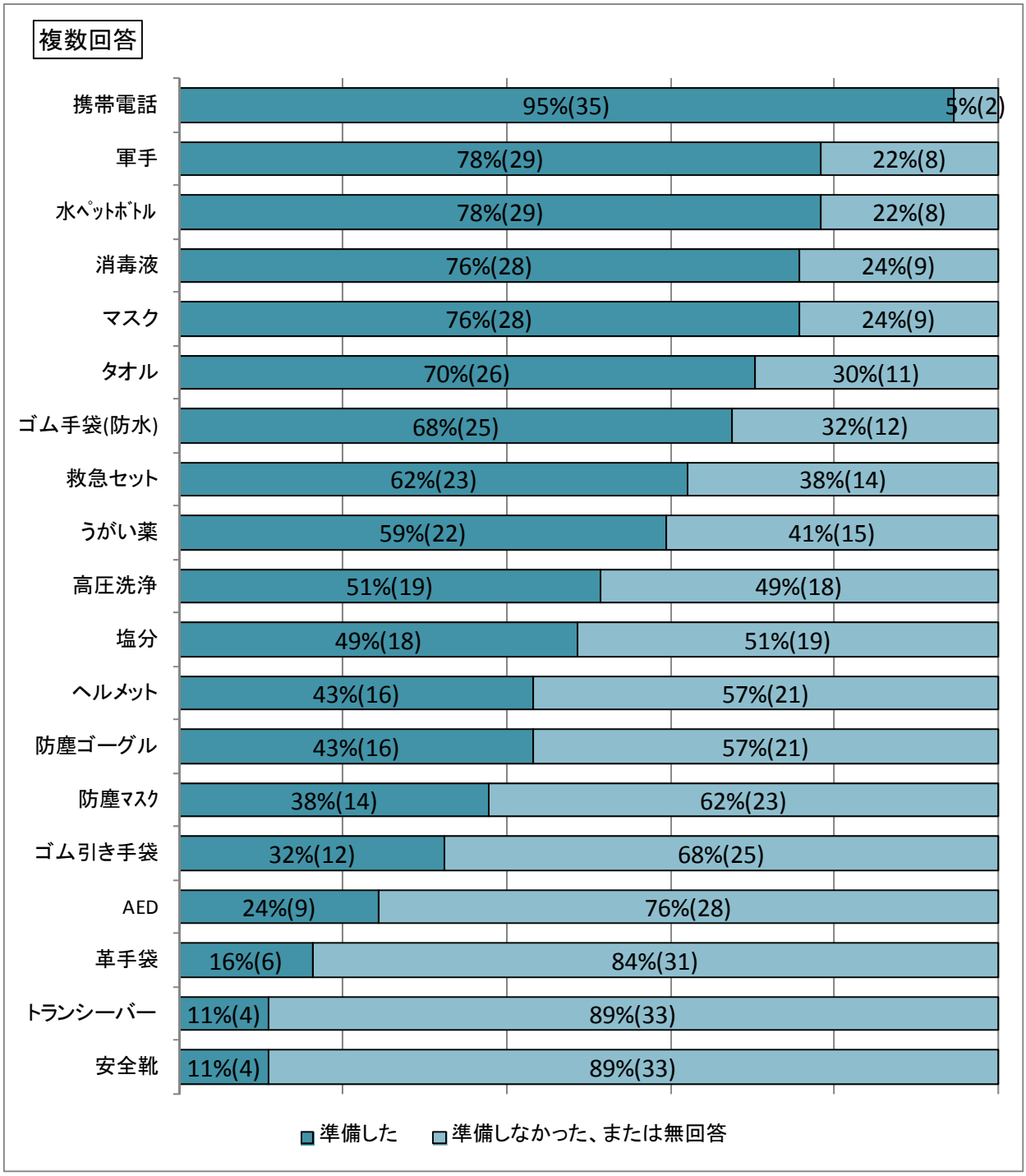
平成 16 年より、一般の人も使えるようになったため、各地で一般市民向けの講習が開かれている。



（日本赤十字社ホームページ等より作成）

表 2-1 の資機材・物資について、問 1 の質問に対して、図 2-1 の結果が得られた。

問 1　災害ボランティアセンター（以下、「センター」と呼ぶ）等で準備した用品につき、回答欄に○を入れ、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。調達先については、「備蓄済み」「(・・・)から受領」「地元商店から購入」等とお書きください。



■　図 2-1　ボランティア活動時に準備した安全衛生に関する資機材・物資

準備する割合が多かった資機材・物資

・「携帯電話」（37 センター中 35 センター）
・「水ペットボトル」、「軍手」（37 センター中 29 センター）
・「マスク」、「消毒液」（37 センター中 27 センター）

準備する割合が低かった資機材・物資、準備していなかった資機材・物資

・「トランシーバー」、「安全靴」（37 センター中 4 センター）
・「革手袋」（37 センター中 6 センター）
・「AED」（37 センター中 9 センター）

表 2-1 の他に、安全衛生に関する資機材・物資として、自由回答で記述があったものは、表 2-2 のとおりである。

■ 表 2-2 その他自由回答（安全衛生に関する資機材・物資）

分類	その他、自由回答（資機材・物資）
作業中に用いるもの	「スノーダンプ」 「スコップ」 「バケツ」 「一輪車」 「車両」

コラム 2 「高圧洗浄機」

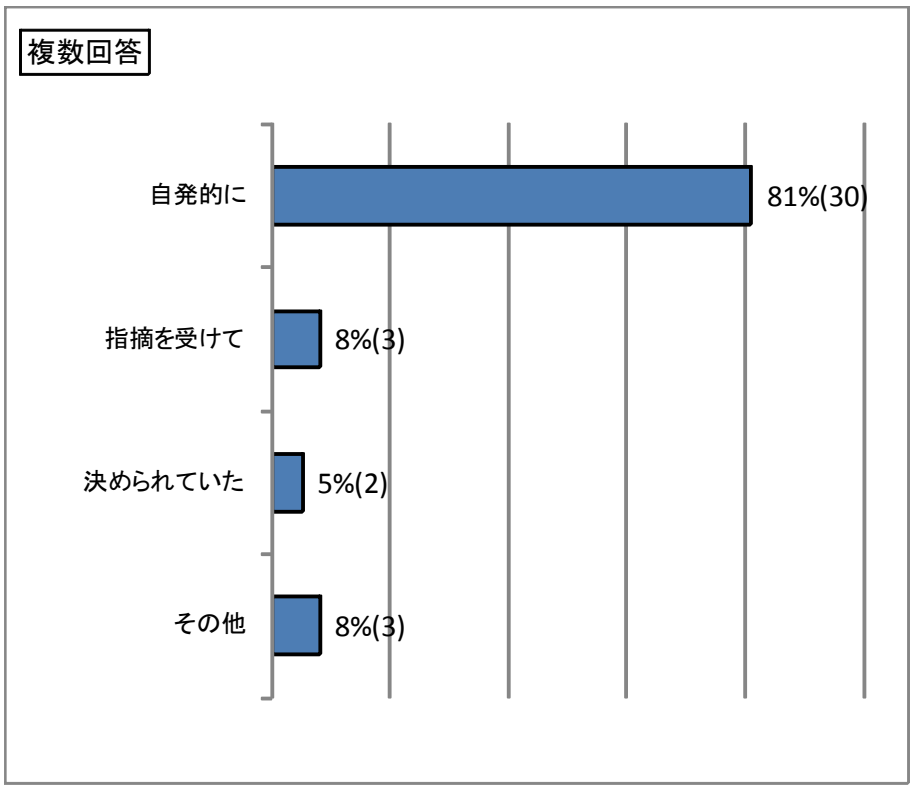
高圧で水を噴射し、泥等の洗浄を行うのに有効な機材。用途によって使い分ける必要があるため、適切なサイズを選ぶ必要がある。

高圧洗浄機の例	活動後の長靴の洗浄	活動先の家屋の洗浄

（２）調達のきっかけ

安全衛生に関する資機材・物資について、調達に至ったきっかけについて、問 2 のとおり聞いたところ、図 2-2 の結果が得られた。

問 2　調達したきっかけはどのようなものですか。
1) ボランティアや関係者から必要との指摘を受けて
2)　センター（スタッフ）が必要と判断し自発的に
3) マニュアルや規定等であらかじめ決められていたため
4)　その他



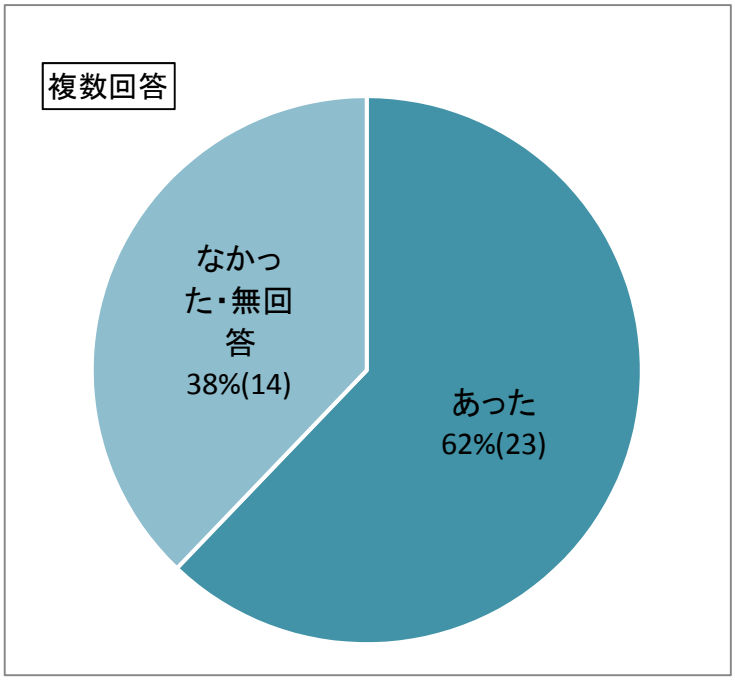
■　図 2-2　調達に至ったきっかけ

「2)センター（スタッフ）が必要と判断し自発的に」資機材・物資等を調達したという回答が多くみられた。「4)その他」の内容は、「行政と相談の上」、「インターネット上での呼びかけ」という回答であった。

（３）調達時に困ったこと

安全衛生に関する資機材・物資の、調達時に困ったことについて、問 3 の質問に対しては、図 2-3 の結果が得られた。

問 3　調達の際に困ったことはありますか。 1)　購入調達先が分からなかった 2)　購入調達先のための資金が足りなかった 3)　想定した購入調達量が確保できなかった 4)　その他



■　図 2-3　調達時の困ったことの有無

資機材・物資の調達の際に困ったことがあったセンターは約 6 割あり、そのうち 13 センターが「3)想定した購入調達量が確保できなかった」と回答している。

「4)その他」の困ったこととして、「販売店が物資不足により営業していなかった」、「ホームページでの呼びかけと実際の必要物資に差があり、大量に保管しなければならなかった」という回答があった。

また、「資金があれば調達したかったもの」の質問に対して、「高圧洗浄機」や「資機材運搬及びボランティアを被災地へ送迎するための車両」を調達したかったという意見があった。

センターの安全衛生に必要な資機材・物資等について聞いたところ、「水、塩分」という熱中症対策に関する意見があった。

２－２．ボランティア活動者に対する安全衛生に関する配慮

（１）各センターにおけるケガ・疾病の予防、健康管理面での配慮について

ケガ・疾病予防や健康管理について、問 4 のとおり聞いたところ、図 2-4、図 2-5、図 2-6、図 2-7 の結果が得られた。

問 4　災害ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と周知策を、すべてご記入下さい。

【周知内容】

A　活動環境（被災地の被害状況・天候など）　B　必要な服装・装備・作業所銃の心構え

C　作業手順等　D　ケガ、疾病時の応急手当方法

E　ケガ、疾病時の現地連絡先（救護所など）　F　一定時間おきの休憩

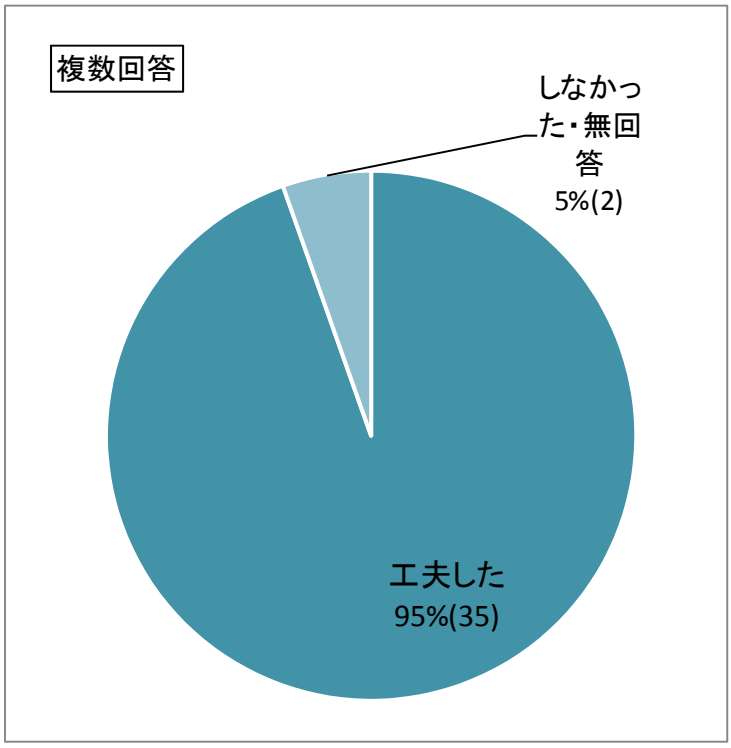
G　天候急変時の対応

【周知策】

①　特に周知のための手当はしなかった　②　センター内に張り紙等で掲示

③　参加者に紙で配付　④　参加者向けの説明会を実施

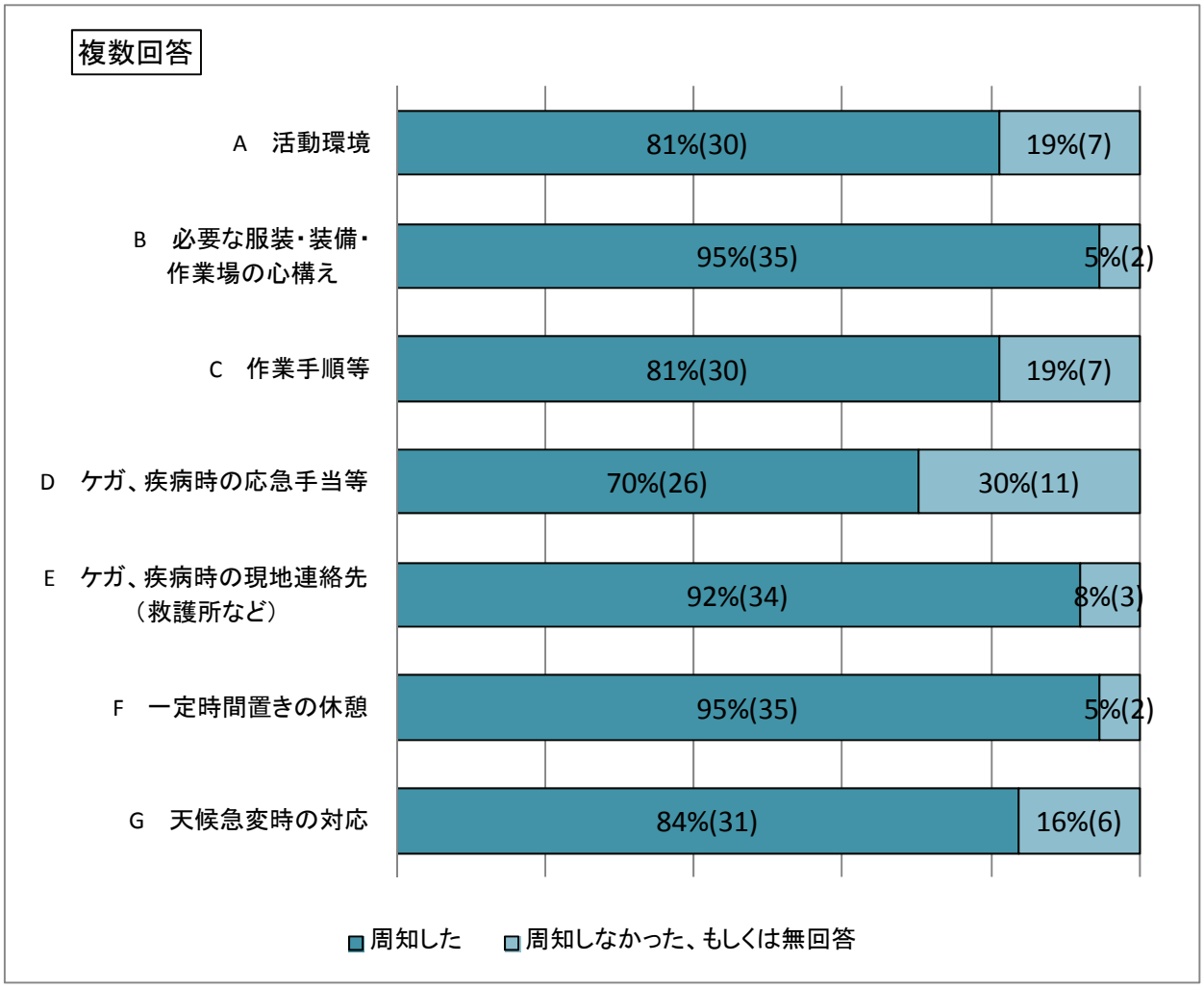
⑤　現場リーダーに通達　⑥　インターネットに掲示



■　図 2-4　安全衛生面に関してなんらかの工夫をしたセンター

95%のセンターにおいて、ケガ・疾病予防や健康管理方法について、何らかの配慮を行っていたという回答が得られた。

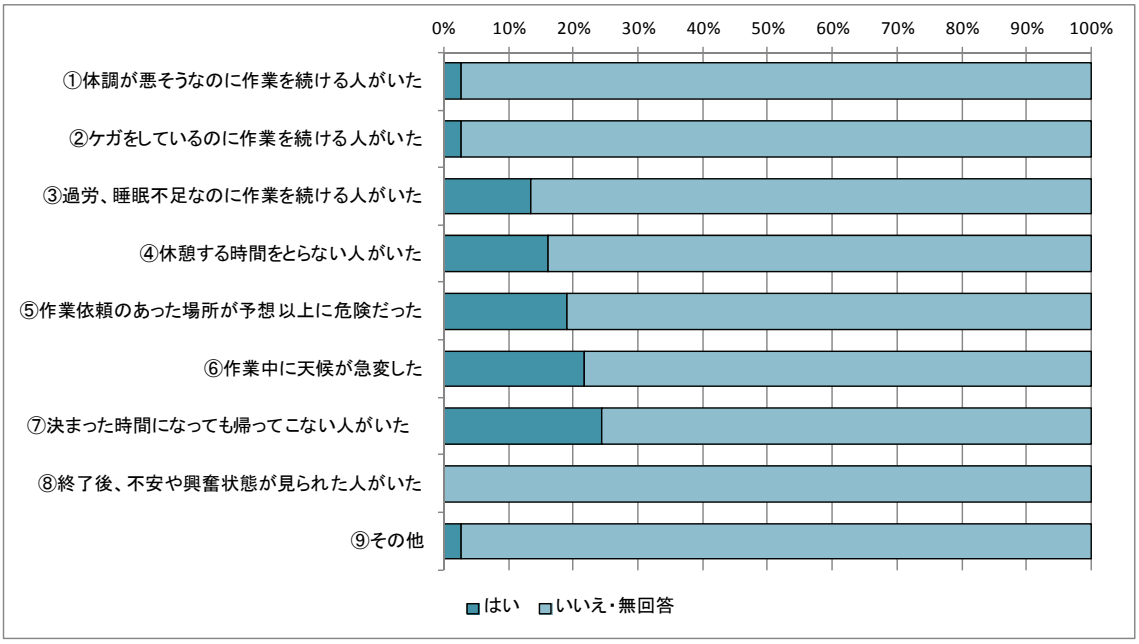
また、その配慮の内容については図 2-5 のとおりであった。



■　図 2-5　ケガ、疾病の予防・健康管理面での配慮の実施の有無

「B）必要な服装・装備・作業場の心構え」、「E）ケガ、疾病時の現地連絡先」「F）一定時間おきの休憩」は、9 割前後のセンターが周知していた。「G）天候急変時の対応」は、84%が周知しており、「A）活動環境」、「C）作業手順等」は、約 8 割のセンターが周知していた。

ケガ・疾病の予防・健康管理方法の周知方法については、図 2-6 のとおりであった。

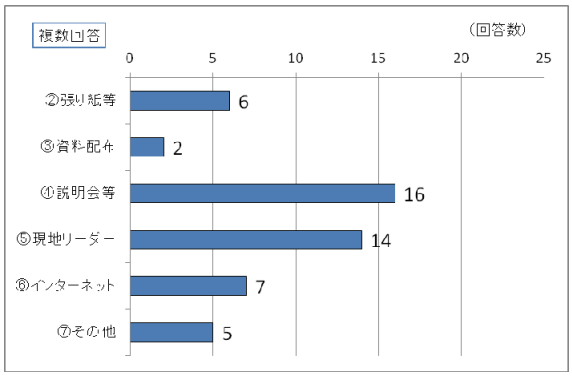


■図 2-6 ケガ、疾病の予防・健康管理に関する周知方法（数値は下表）

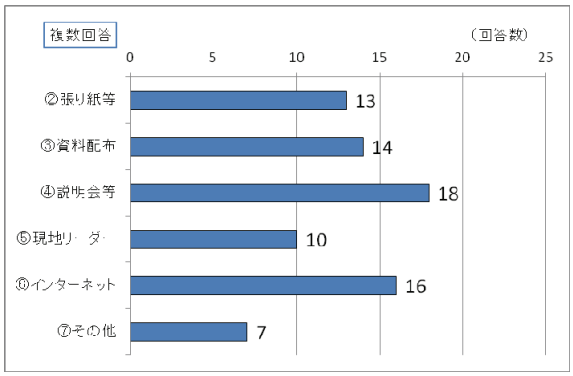
	実施した	実施しなかった、もしくは無回答
②センター内張り紙等で啓示	5%(2)	95%(35)
③紙にして参加者に資料配布	16%(6)	84%(31)
④説明会・オリエンテーションを実施	22%(8)	78%(29)
⑤現地リーダーに通達	30%(11)	70%(26)
⑥インターネットに掲示	5%(2)	95%(35)
⑦その他	8%(3)	92%(34)

「⑤現地リーダーに通達」が一番多いものの、実施割合は 3 割であった。次いで「④説明会・オリエンテーションを実施」や「③紙にして参加者に配布」が多かった。

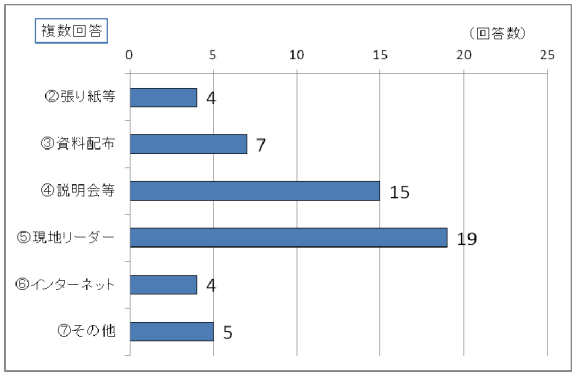
1）活動環境（被災地の被害状況・天候など）



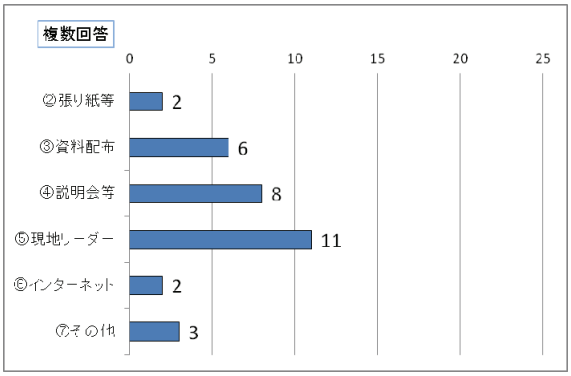
2）必要な服装・装備・作業上の心構え



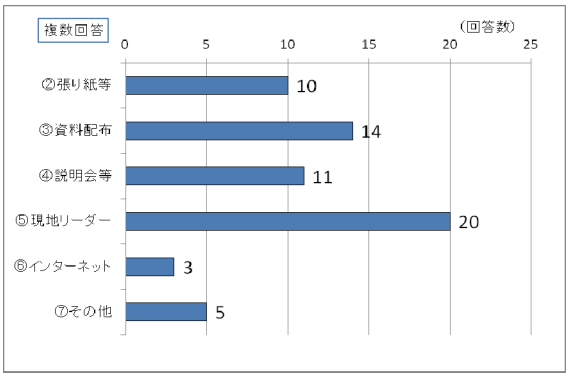
3）作業手順等



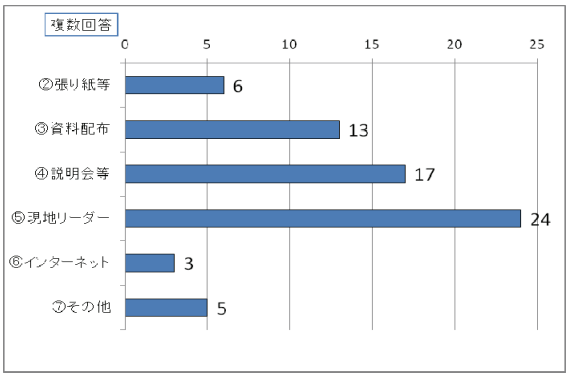
4）ケガ、疾病時の応急手当方法



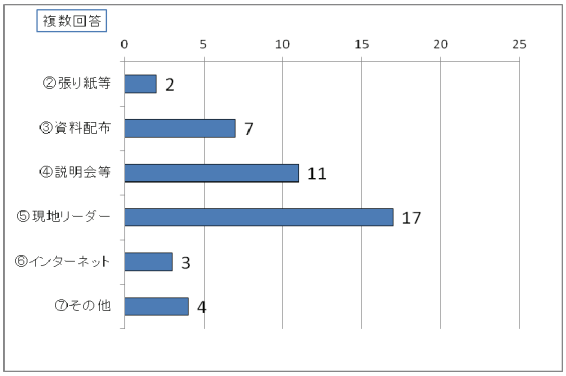
5）ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）



6）必ず一定時間おきに休憩をとること



7）天候急変時の対応



【凡例】

張り紙等　　：センター内に張り紙等で掲示

資料配付　　：参加者への資料配付

説明会等　　：説明会の開催

現場リーダー：現場リーダーへの通達

インターネット：インターネットに掲示

■　図 2-7　周知内容に対するそれぞれの周知方法

図 2－7 の 1)～7)を整理すると下記となる。

1）活動環境

説明会の開催が 16 センター、次いで、現場リーダーへの通達が 14 センターで行われた。その他として、作業前のミーティングで通知するという回答があった。

2）必要な服装・装備・作業場の心構え

説明会の開催が 18 センター、次いで、インターネットでの通達が 16 センターで行われた。その他として、作業前のミーティングで通知するという回答があった。

3）作業手順等

現場リーダーへの通達が 19 センター、次いで、説明会の開催が 15 センターで行われた。その他として、作業前のミーティングで通知するという回答があった。

4）ケガ、疾病時の応急手当方法

現場リーダーへの通達が 11 センター、次いで、説明会の開催が 8 センターで行われた。その他として、救急箱の設置により対応するという回答があった。

5）ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）

現場リーダーへの通達が 20 センター、次いで、資料配布が 14 センターで行われた。その他として、作業前のミーティングで通知するという回答があった。

6）必ず一定時間おきに休憩をとること

現場リーダーへの通達が 24 センター、次いで、説明会の開催が 17 センターで行われた。その他として、リーダーが現場に同行し指示するという回答があった。

7）天候急変時の対応

現場リーダーへの通達が 17 センター、次いで、説明会の開催が 11 センターで行われた。その他として、作業前のミーティングで通知するという回答があった。

（２）その他安全衛生面に関する配慮事項

その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知について、問 5 のとおり聞いたところ、表 2-3 の回答が得られた。

問 5　その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のための方策があればご記入ください。 （自由回答）

■ 表 2-3　その他安全衛生面に関する配慮事項（自由回答）

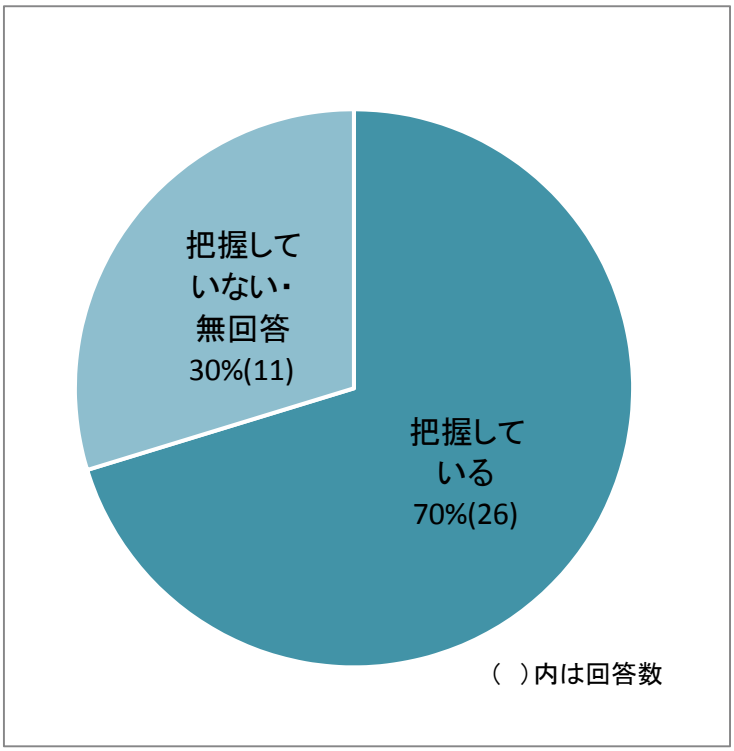
	対　策　の　内　容
活動中	・運営スタッフに余裕があれば、巡回チームを作り、活動現場を巡回。 ・日赤奉仕団による巡回。 ・熱中症等の対策として、塩熱飴の配布と午前、午後にスポーツドリンクを配布。 ・水分の補給、塩アメ等の補給、医療スタッフの配置 ・活動中マスクの使用。 ・手指消毒、うがい薬の設置。 ・参加者全員がボランティア活動保険（大規模災害）に加入。

２－３．ボランティア活動時において発生したケガ、疾病

（１）発生したケガ・疾病

各センターにボランティア活動時のケガ・疾病の発生について問 6 の質問に対し、図 2-8 の結果となった。

問 6　センターとして活動中の、ケガ・疾病について把握していましたか。

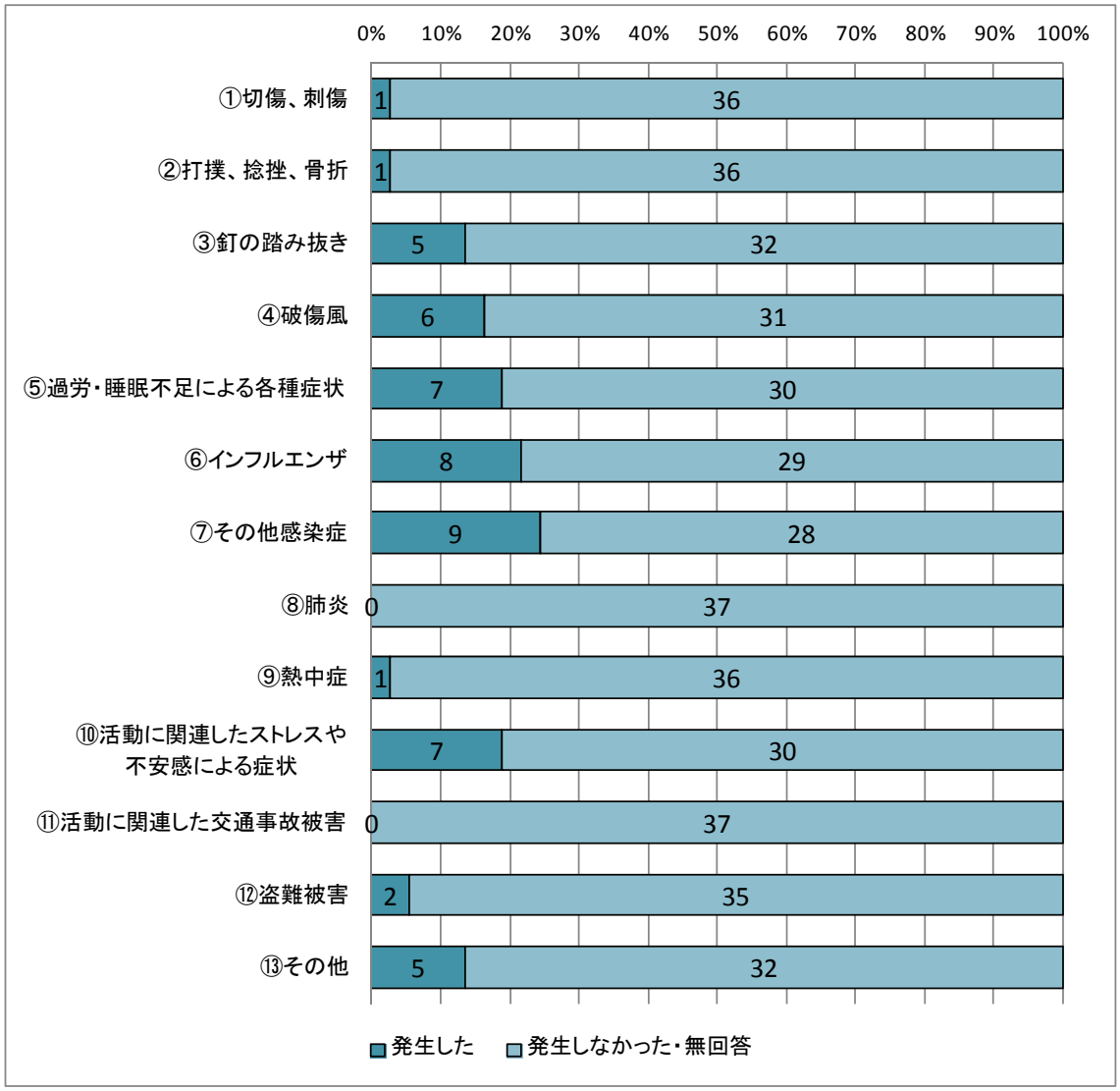


■　図 2-8　災害ボランティア活動時のケガ･疾病の把握

また、ケガ・疾病の内容について、問 7 の質問に対し、図 2-9 の結果となった。

問 7　どのようなケガ・疾病だったでしょうか。（複数回答）

①熱中症　②過労・睡眠不足による各種症状　③持病の悪化
④胃腸消化器の不良　⑤転倒等によるケガ（クギのふみぬき等）
⑥作業中のケガ（クギのふみぬき等）
⑦移動中の事故　⑧その他（具体的な内容）



■　図 2-9　ケガ・疾病の内容

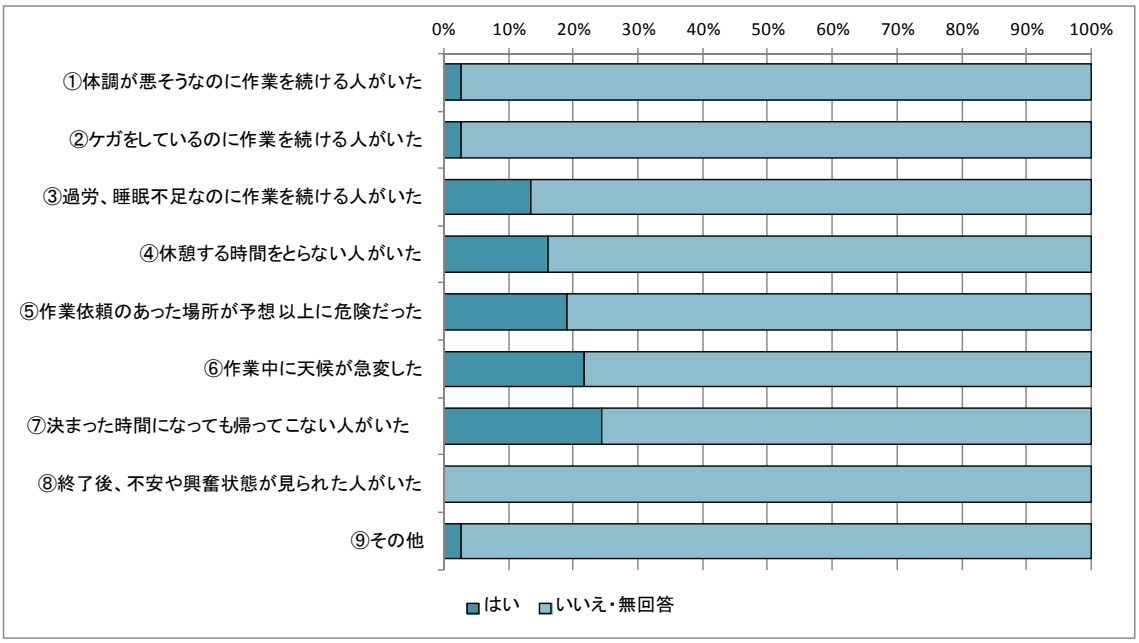
ボランティア活動時のケガ・疾病のあったセンター数は 20 で、そのうち 8 センターでインフルエンザ、9 センターでその他の感染症にかかった人がいた。作業中のケガでは、釘の踏み抜きが 5 センターで最も多い。破傷風も 6 センターで起こった。

また、その他の内容として、「腰の痛み」、「目にゴミやスプレー缶から噴出した液が入った」等が報告された。

また、問 7 の選択肢以外で、安全衛生面上でのリスクにつながる行動があったかどうかについて、問 8 の質問に対し、図 2-10 のような結果となった。

問 8　下記の様な事例がありましたか。（複数回答可）

①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた　②ケガをしているのに作業を続ける人がいた
③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた　④休憩する時間をとらない人がいた
⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった　⑥作業中に天候が急変した
⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた[*3]　⑧その他

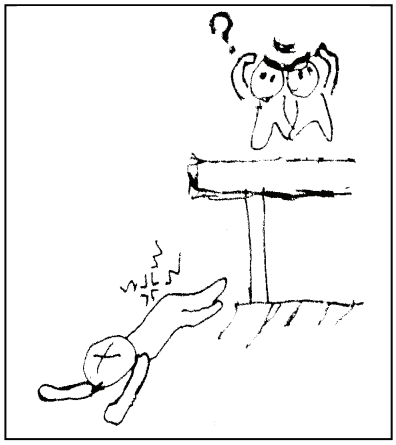


■　図 2-10　安全衛生上リスクにつながる行動

	はい	いいえ・無回答
①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた	3%(1)	97%(36)
②ケガをしているのに作業を続ける人がいた	3%(1)	97%(36)
③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた	14%(5)	86%(32)
④休憩する時間をとらない人がいた	16%(6)	84%(31)
⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった	19%(7)	81%(30)
⑥作業中に天候が急変した	22%(8)	78%(29)
⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた	24%(9)	76%(28)
⑧終了後、不安や興奮状態が見られた人がいた	0%(0)	100%(37)
⑨その他	3%(1)	97%(36)

「⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた」と回答したセンターが 9 センターと最も多く、「⑥作業中に鉄鋼が急変した」、「⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった」と作業環境に関する回答が続いた。

＊3 なぜ決まった時間の点呼が重要か



問 8 の選択肢については、被災地内で活動する際に直接リスクにつながる可能性のある行為を列挙したものである。

例えば「決まった時間になっても帰ってこない人がいた」は、被災地域内においては、斜面の崩落や二次災害を受ける恐れがあり、見えないところで動けなくなったりする者が発生する可能性があり、さらには、当日初めて顔を合わせる者同士で作業することも少なくなく、動けなくなった者を見逃してしまう可能性がある。このため、作業前、休憩時、作業完了後それぞれに点呼を行い、不明者が発生していなことを確認することが重要である。

また、二人一組でお互いの所在を確認し、顔色を見るなどにより健康状態をチェックしあう仕組み（バディ・システム）などを取り入れることも有効である。

その他、被災地域においては、被災者からの期待や、参加意欲の高い者が復旧活動に参加しているため、ケガをしていたり、体調が悪い人でも活動に参加したり、必要な休憩を取らずに活動を続けてしまう可能性がある。

これらは、思いもよらない事故や、被災地域の方や被災者も含めた過労、さらには作業にあたった者がなかなか　日常生活に戻れなくなるような症状にもつながりかねないリスクであり、作業計画等を立てる際には十分な配慮が必要である。

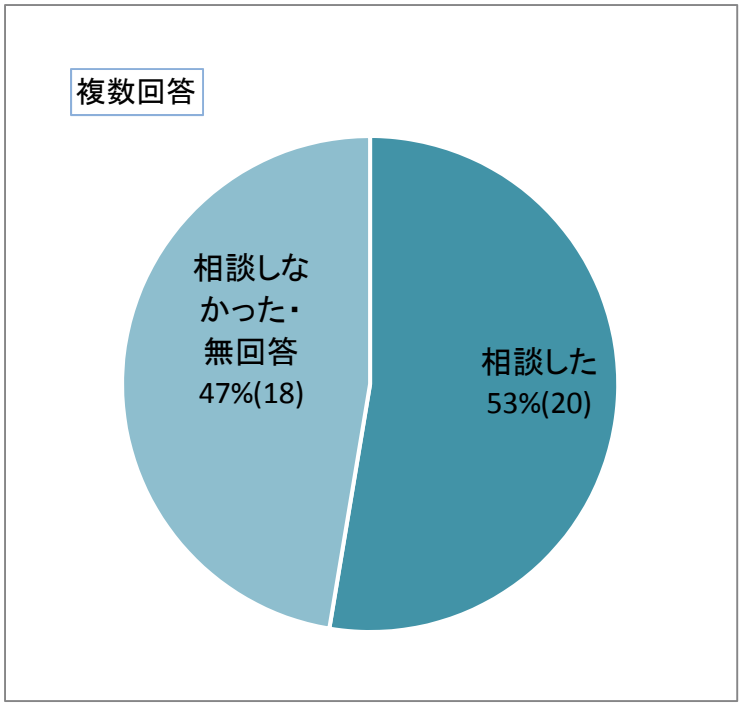
（２）専門家への相談

有給／無給、義務・契約／自発に関わらず、通常の労働現場と同等のリスクのもとで活動する可能性がある以上、平時から安全衛生の確保に携わっている専門家に相談することは、極めて有効である。

そこで、それぞれのセンターにおいて、災害ボランティア活動の安全衛生について、問 9 の質問を行ったところ、図 2-11 の結果が得られた。

問 9　災害ボランティア活動の安全衛生について、どんな専門家に相談しましたか。（複数回答可）

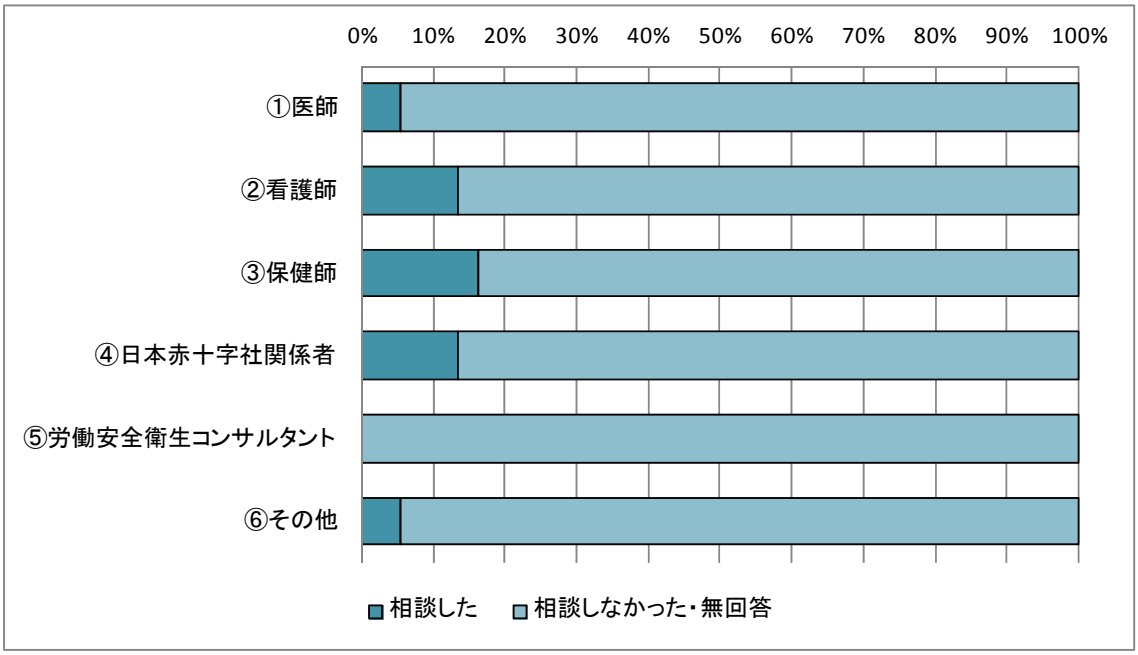
①医師　②看護師　③保健師　④日本赤十字社関係者
⑤労働安全衛生コンサルタント　⑥その他（具体的な内容）　⑦特に相談していない



■　図 2-11　専門家への相談の有無（全体）

災害ボランティア活動の安全衛生について、何らかの専門家に相談したセンター数が過半数の 20 センター(53%)であった。

具体的に、どのような専門家に相談を行ったかについては、図 2-12 のとおりであった。



■　図 2-12　相談した専門家の種類

	相談した	相談しなかった・無回答
①医師	5%(2)	95%(35)
②看護師	14%(5)	86%(32)
③保健師	16%(6)	84%(31)
④日本赤十字社関係者	14%(5)	86%(32)
⑤労働安全衛生コンサルタント	0%(0)	100%(37)
⑥その他	5%(2)	95%(35)

安全衛生について専門家に相談を行ったセンターは、「③保健師」が 6 センター、「②看護師」、「④日本赤十字社関係者」が各 5 センターあった。

「⑤労働安全衛生コンサルタント」への相談はなかった。

Ⅲ．資料編

３－１．安全衛生のために使われる資機材・物資の例

ヘルメット 頭部を保護する	**防塵（ぼうじん）ゴーグル** 目を保護する	**防塵（ぼうじん）マスク** 粉じんを吸い込まないようにする	**通常のマスク** 防塵（ぼうじん）マスクの簡易のもの
軍手 すべり止めのゴムが付いたものがある	**ゴム引き手袋** 手のひらの面にゴムが塗られており、手を保護する	**ゴム手袋（防水）** 手袋内に水が浸入するのを防ぐ	**革手袋** 手を保護する
安全靴（つま先や靴底に鉄板等が入ったもの） 足を保護する	**タオル** 汗や汚れのふき取り等に使用する	**ペットボトルの水** 水分を補い、熱中症等を予防する	**塩分など** 発汗等により失われた塩分やミネラル分を補う
救急セット 活動先での応急手当てができるようまとめたもの	**携帯・トランシーバー** 離れた場所と連絡を取り合う際に使用	**消毒液** 手洗い時に使用し、食中毒等を予防する	**うがい薬** 活動時のほこり等で汚れたのどを洗浄する

災害ボランティアセンターに関するアンケートのお願い

平成２３年（平成２３年１月から平成２３年１２月）に開設された
災害ボランティアセンター対象（東日本大震災を除く）

内閣府　災害予防担当

回答は、同封の返信用回答用紙にご記入ください。

※このアンケートでいう「災害ボランティアセンター」とは、例えば、災害後に住民の方からのニーズ等に基づき、ボランティア希望者を受付・派遣調整、避難所運営支援や、復旧活動支援等を仲介するしくみを指します。「災害ボランティアセンター」という名称を付けずに活動している場合もありますので、名称にこだわらずに幅広い概念でとらえてお答えください。

設置経緯

１．災害ボランティアセンター（以下、「センター」という。）の設置の経緯等について

問１－１　センターについて、以下の項目にお答えください。
【回答様式に下記の項目が記されていますので、埋めてください】

（１）センターの正式名称
（２）該当災害名
（３）設置期間（運営日数）
（４）センター長（代表者）の氏名と本来の役職
（５）センターの事務局の設置場所（例：「市町村役場内」、「社会福祉協議会内」など）
（６）設置時、最大時、閉塞時におけるセンターのスタッフの概数
（７）センターの運営スタッフ・組織名称と役割
（８）センターの設置に至った理由（選択）
①住民からのニーズ　②行政からの指示（地域防災計画の記述に準じた判断）
③外部ボランティア関係者からの要望　④その他
（９）センターの立ち上げ・運営にあたった個人名あるいは団体名
（例：「○○町社会福祉協議会」、「ＮＰＯ法人 ○○○」など）
※立ち上げに、ボランティア団体などの複数の主体が関わった場合、その役割分担など構成についてもお答えください。

問１－２　センターと自治体との連携内容についてお聞きします。下記の中から該当するすべての番号をご記入ください。（複数回答可）

①災害対策本部の会議に災害ボランティアセンター関係者が出席した
②被災者のニーズに関する情報交換（電話やＦＡＸなどによるやりとり）
③ボランティア活動に対する物資支援
④センターの運営支援（運営ノウハウや人員の提供等）
⑤ボランティア活動に対する資金援助
⑥行政からの被災状況等の情報提供
⑦自治体の地域防災計画の中にボランティアに関する記述がある
⑧その他　（連携の内容をお書きください）

～質問票：次のページに続く　（１／５）～

問１－３　センターを通じて活動したボランティア活動について、以下の項目にお答え下さい。

（１）ボランティア活動者数の集計方法
（例：「センター開設から閉鎖までの受付人数を集計」「ボランティア活動者から提出される、当日の活動報告書の人数を集計」など）
（２）ボランティア活動者数（のべ人日の総計）
（３）活動状況の概要を把握できる参考資料の有無
（４）主な活動内容についてお選びください。また、具体的な活動内容もご記入ください。
①家屋内　②家屋外　③その他

資金

２．センターの運営に関する資金について

問２－１　センター運営の資金について、調達先すべてとその概算金額をお答えください。

（調達先）①市区町村社会福祉協議会のボランティア基金　②市区町村社会福祉協議会の①以外の費目（通常経費など）
③都道府県社会福祉協議会のボランティア基金　④都道府県社会福祉協議会の③以外の費目（通常経費など）
⑤市区町村のボランティア基金　⑥市区町村の⑤以外の費目（通常経費など）
⑦都道府県のボランティア基金　⑧都道府県の⑦以外の費目（通常経費など）
⑨赤い羽根募金の災害ボランティア・市民活動支援制度
⑩青年会議所など地域団体からの寄付金等
⑪地域外のボランティア団体の資金　⑫民間企業からの寄付金
⑬その他（財団・諸団体等からの寄付金等）
⑭当該災害ボランティアセンター自身の活動基金等
（※⑨～⑭の場合は、調達先の名称もお答えください）

ニーズ

３．ニーズの把握方法について

問３－１　センターの運営にあたり、被災者のニーズを把握した方法についてお答えください。（複数回答可）

①チラシ等の配布　②自治会・町会関係者を通じた把握
③民生児童委員等を通じた把握　④ローラー作戦（地域一帯の聞き取り）
⑤地元ボランティア関係者を通じた把握　⑥行政からの情報提供
⑦防災無線を通じた告知　⑧その他

問３－２　ニーズの数とボランティア活動希望者の数の関係について、該当するものすべてにお答えください。

①ニーズの内容に対してボランティア活動希望者が足りなかったことがある。
②ニーズの内容に対してボランティア活動希望者数が余ってしまったことがある。
③ニーズの内容とボランティア活動希望者数のバランスがとれていた。

問３－３　市町村の範囲を越える他地域からのボランティア活動希望者の受け入れを行いましたか。受け入れた場合には何か配慮した点等があればお教えください。

①はい（何か配慮された点等があればご記入ください）　②いいえ

～質問票：次のページに続く　（２／５）～

マニュアル

４．センター設置・運営に関するマニュアル等（運営規則など）について

問４－１　センター設置・運営にあたり、事前にマニュアル等は作成していましたか。また、活用されましたか。（回答④⑤についてはその理由もお書きください）
①マニュアル等は作成していなかった。
②マニュアル等は作成していたが、それが見つからなかった。
③マニュアル等があり、実際に活用した。
④マニュアル等があり、活用はしなかったが、参考にした。（理由もご記入ください）
⑤マニュアル等はあったが、全く使わなかった。（理由をご記入ください）

問４－２　「問４－１」で「①」以外をお答えいただいた方に：マニュアルの作成主体の名称と作成時期（年、できれば月）をご記入ください。
（例：「○○市社会福祉協議会」、「○○県」、（ＮＰＯ法人）など。複数ある場合は、複数列挙してください）

問４－３　内閣府では、センターの立上げに役立つ防災ボランティア活動の「情報・ヒント集」を公開しておりますが、公開されていることを知っていましたか。
①知っていて活用した　②知っていたが活用しなかった　③知らなかった

研修

５．防災ボランティア活動に関わる研修等について

問５－１　被災した地元の運営スタッフの中には防災ボランティア活動、センター運営に関する研修を受けたことがある人がいましたか。
①はい（参加人数、具体的な研修名称・時期についてもご回答ください。）
②いいえ

問５－２　内閣府では、ボランティアを受け入れる立場の方々（自治会・町内会、民生委員・児童委員等の地域のリーダーとなる方々）等を対象として、「ボランティアを地域で受け入れるための知恵」などをまとめたパンフレット「地域の『受援力(じゅえんりょく)』を高めるために」を公開しておりますが、公開されていることを知っていましたか。
①知っていて活用した　②知っていたが活用しなかった　③知らなかった

連携

６．自治体との平時からの連携について

問６－１　平時に、センターの設置やボランティア希望者の受付・配分等も含めた「防災訓練」を実施していますか。
①　はい　②いいえ

問６－２　「問６－１」で①とお答えいただいた方に：その防災訓練は、自治体以外の組織と連携して実施していますか。（実施している場合、その主体名と訓練の概要をお答えください）
①　はい（連携主体名、訓練概要をご記入ください）　②いいえ

問６－３　防災を目的として、自治体とボランティア団体等との連携の場（協議会、連絡会議など）を設置していますか。（設置されている場合、その構成員と事務局となる主体をご記入下さい）
①はい（構成員と事務局となる主体をご記入ください）
②いいえ　③わからない

～質問票：次のページに続く　（３／５）～

安全衛生

７．ボランティア活動時の安全衛生に関する配慮等

問７－１　防災ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法について、参加者等に周知したことがあれば、その内容と方法をすべてご記入ください。（複数回答可）
【周知する内容】
A　活動環境（被災地の被害状況・天候など）　B　必要な服装・装備・作業場の心構え
C　作業手順等　D　ケガ、疾病時の応急手当法
E　ケガ、疾病時の現地連絡先（救護所など）　F　一定時間おきの休憩
G　天候急変時の対応
【周知方法】（複数あれば、すべてご記入ください）
①特に周知のための手当てはしなかった　②センター内に張り紙等で掲示
③参加者に紙で配布　④参加者向けの説明会を実施
⑤現場リーダーに通達　⑥インターネットに掲示

問７－２　その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のための方策があればご記入ください。

問７－３　センターとして活動中の、ケガや疾病について把握していましたか。
①把握している　②把握していない

問７－４　「問７－３」で①と答えた方に：どのようなケガ・疾病だったでしょうか。その内訳と件数をご記入ください。（複数回答可）
①切傷、刺傷　②打撲、捻挫、骨折
③釘の踏み抜き　④破傷風
⑤過労・睡眠不足による各種症状（目まい、頭痛等）　⑥インフルエンザ
⑦その他感染症（胃腸炎等）　⑧肺炎
⑨熱中症
⑩活動に関連したストレスや不安感による症状（うつ、情緒不安定等）
⑪活動に関連した交通事故被害　⑫盗難被害
⑬その他（具体的な内容をお書きください）

問７－５　「問７－３」で①と答えた方に：ボランティア保険を活用しましたか。また、ボランティア保険の活用の具体的な内容（7−4の選択肢を参考に記載）、その他気がついた点についてご記入ください。
①適用した（件数、具体的な内容をご記入ください）
②適用していない

問７－６　ケガや疾病には至らないものの、下記のような事例はありましたか。（複数回答可）
①体調が悪そうなのに作業を続ける人がいた　②ケガをしているのに作業を続ける人がいた
③過労、睡眠不足なのに作業を続ける人がいた　④休憩する時間をとらない人がいた
⑤作業依頼のあった場所が予想以上に危険だった　⑥作業中に天候が急変した
⑦決まった時間になっても帰ってこない人がいた
⑧終了後、不安や興奮状態が見られた人がいた
⑨その他（具体的な内容をお書きください）

問７－７　災害ボランティア活動の安全衛生について、どのような専門家に相談しましたか。（複数回答可）
①医師　②看護師
③保健師　④日本赤十字社関係者
⑤労働安全衛生コンサルタント　⑥その他（具体的な内容をお書きください）
⑦特に相談していない

８．ボランティア活動の安全衛生に関わる資機材・物資について

問８－１　センター等で準備した資機材・物資について、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。
（調達先については、「備蓄済み」「～から受領」「地元商店から購入」などとお書きください。）

①救急箱などの救急用品セット　②消毒液　③うがい薬
④ＡＥＤ（自働体外式除細動機）　⑤連絡用の携帯電話　⑥トランシーバー
⑦軍手　⑧ゴム手袋（防水）　⑨ゴム引き手袋（荷運び向け）
⑩皮手袋　⑪ヘルメット　⑫防塵ゴーグル
⑬通常のマスク　⑭防塵マスク　⑮安全靴
⑯タオル　⑰ペットボトルの水　⑱（熱中症予防の）塩分など
⑲高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）　⑳その他（自由回答）

問８－２　調達したきっかけはどのようなものですか。（いずれかを回答）

①ボランティアや関係者から必要との指摘を受けて
②センター（スタッフ）が必要と判断し自発的に
③マニュアルや規定等で決められていた
④その他（具体的な内容をお書きください）

問８－３　調達の際に困ったことはありますか。（複数回答可）

①購入調達先が分からなかった　②購入調達のための資金が足りなかった
③購入先から安定して十分な量が確保できなかった　④その他（具体的な内容をお書きください）

問８－４　資金があれば調達したかったものは何でしょうか。（自由回答）

問８－５　その他、センターの安全衛生のために必要な資機材・物資等があればご記入ください。（自由回答）

９．防災ボランティア活動の環境整備について、感想・提案等があればご自由にご記入ください。

（例：役だった支援物資、役立ったノウハウ、活躍したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標・課題　等）

アンケートは以上です。ご協力していただきありがとうございました。

【調査に関する問い合わせ・資料の送付先】
株式会社ダイナックス都市環境研究所（担当：津賀、橋本、渡辺）
ＴＥＬ：０３－３５８０－８２２１　ＦＡＸ：０３－３５８０－８２６５
〒１０５－０００３　東京都港区西新橋２－１１－５　ＴＫＫ西新橋ビル３Ｆ

FAX　03-3580-8265

災害ボランティアセンターに関するアンケート回答用紙

都道府県		区市町村	
部署		担当者名	
電話		ＦＡＸ	
Ｅｍａｉｌ			

【記入上の注意】記述はわかりやすいように大きくご記入ください。

１－１	（１）正式名称：		
	（２）災害名：		
	（３）設置期間：　平成２３年　月　日～　月　日　（運営日数：　日）		
	（４）センター長名：　（役職：　）		
	（５）事務局の設置場所：		
	（６）	職員スタッフ	ボランティアスタッフ
	設置時	名	名
	最大時	名	名
	閉塞時	名	名
	（７）スタッフの組織名称 ・職員 団体名（　）役割（　） ・ボランティア 団体名（　）役割（　） ※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。		
	（８）設置に至った理由：回答番号 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　）		
	（９）個人名あるいは団体名と役割 名称（　）役割（　） 名称（　）役割（　） 名称（　）役割（　） ※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。		
１－２	回答番号（複数回答可）： 「⑧その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　）		
１－３	（１）集計方法：		
	（２）活動者数（のべ人数）：　のべ　名		
	（３）資料の有無：		
	（４）主な活動内容（回答番号）： 具体的な活動内容 （　）		

～回答用紙：次のページに続く　（１／４）～

２－１	回答番号		調達先		金額（概算）	万円
	回答番号		調達先		金額（概算）	万円
	回答番号		調達先		金額（概算）	万円
	回答番号		調達先		金額（概算）	万円

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。

３－１	回答番号： 「⑧その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　　）
３－２	回答番号：
３－３	回答番号： 「①はい」の場合、何か配慮された点等をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　　）

４－１	回答番号： 理由：
４－２	作成主体（複数列挙可）： 作成時期：
４－３	回答番号：

５－１	回答番号： 「①はい」の場合、以下ご記入下さい。（可能な範囲で結構です） 参加人数：（　　名） 時期：平成　　年　　月　　日～　　月　　日 研修名：
５－２	回答番号：

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。

～回答用紙：次のページに続く　（２／４）～

６－１	回答番号：
６－２	回答番号： 「①はい」の場合、以下ご記入下さい。（可能な範囲で結構です） 主体名（複数列挙可）： 訓練概要：
６－３	回答番号： 「①はい」の場合、以下ご記入下さい。 構成員（複数列挙可）： 事務局（複数列挙可）：

※上記に書ききれない場合は、そのリストを別添してください。

	周知する内容	回答欄（周知方法）
７－１	A　活動環境（被災地の被害状況・天候など）	
	B　必要な服装・装備・作業上の心構え	
	C　作業手順等	
	D　ケガ、疾病時の応急手当法	
	E　ケガ、疾病時の現地連絡先（救護所など）	
	F　一定時間おきの休憩	
	G　天候急変時の対応	
７－２	その他対策：	

７－３	回答番号：				
７－４	回答番号 （複数回答可）	①切傷、刺傷	件	②打撲、捻挫、骨折	件
		③釘の踏み抜き	件	④破傷風	件
		⑤過労・睡眠不足による各種症状		件	
		⑥インフルエンザ	件	⑦その他感染症	件
		⑧肺炎	件	⑨熱中症	
		⑩活動に関連したストレスや不安感による症状			件
		⑪活動に関連した交通事故被害		件	
		⑫盗難被害		件	
		⑬その他			
７－５	回答番号：				
	適応内容：				
７－６	回答番号（複数回答可）：				
７－７	回答番号（複数回答可）：				

～回答用紙：次のページに続く　（３／４）～

８－１	用品名	回答欄	数量	調達先
	①救急箱などの救急用品セット		組	
	②消毒液		本　（大きさ　　ml）	
	③うがい薬		本　（大きさ　　ml）	
	④ＡＥＤ（自動体外式除細動機）		台	
	⑤連絡用の携帯電話		台	
	⑥トランシーバー		台	
	⑦軍手		組	
	⑧ゴム手袋（防水）		組	
	⑨ゴム引き手袋（荷運び向け）		組	
	⑩革手袋		組	
	⑪ヘルメット		個	
	⑫防塵ゴーグル		個	
	⑬通常のマスク		個	
	⑭防塵マスク		個	
	⑮安全靴		足	
	⑯タオル		枚	
	⑰ペットボトルの水		本　（大きさ　　ml）	
	⑱（熱中症予防の）塩分など		人分　又は　　kg	
	⑲高圧洗浄機（汚泥等を洗い流す）			
	⑳その他：			
８－２	回答番号： 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　　）			
８－３	回答番号（複数回答可）： 「④その他」の場合、具体的な内容をご記入下さい。（可能な範囲で結構です） （　　）			
８－４	調達したかったもの：			
８－５	資機材・物資：			

９	（例：役だった物資・ノウハウ、活躍したボランティア団体、今回のセンター設置の成果・課題、今後の設置に向けての目標等）

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

FAX　03-3580-8265

～回答用紙：ここまで　（４／４）～